



SUCCESS STORY 千修岩井印刷株式会社

SONORA 高難度のUV印刷で実力を発揮

採用条件は主力機のH-UV印刷機で5万枚の耐刷性。230線の高精細印刷など高難度の仕事もあるなか、SONORAが厳しい印刷テストを見事にクリア。年間100万円弱のコスト削減と環境対応、品質向上などを実現。

高品質・高難度の仕事で実力を発揮

江東区東雲に本社工場を構える千修岩井印刷株式会社は、2017年10月に株式会社千修から分社化した総合印刷会社である。顧客の多くは国内外のハイブランドや一流企業で、金融から不動産、食品、ファッション、エンターテインメントまで多岐にわたる。ポスターやカタログ、パッケージなど高品質・高難度の要望にも蓄積された技術と経験で応えることで厚い信頼を得ている。印刷部門には四六全判H-UV5色機を中心に菊全判5/5色機、菊全判4色機、菊半裁判5色機の4台を揃え、後加工まで一貫した生産ラインを構築。千修の創業以来の伝統でもある印刷事業をそのまま継承しながら、専門性の向上と業務の効率化、経営のスピードアップを図ることで、印刷ビジネスのさらなる発展を目指している。

「新しいSONORAを使うようになって、印刷が安定しました。視認性も抜群に良くなりました」

経営側と現場側の双方にメリットがあるとSONORAの導入を目指す

同社が無処理版の導入に向けて、本格的に動き始めたのは2016年のこと。無処理版を採用する印刷会社も増えはじめ、業界でも「環境対応」、「コスト削減」、「品質向上」といった無処理版のメリットが徐々に認知されてきた頃である。導入の気運が高まってきた、ちょうどこの時期にKODAKから提案があり、KODAK SONORA プロセスフリー プレート印刷テストを実施する機会に恵まれたという。ただ、採用条件



管理部 部長 小笠原 淳 氏



生産管理部 生産課 課長 福岡 剛 氏



生産課 印刷チームリーダー 青木 悟史 氏





主力機の H-UV5 色印刷機



耐刷性能がアップした最新の SONORA CX2



同社が製造している千修グループの立体年賀状

は H-UV 印刷機で耐刷性 5 万枚以上という過酷なもので、当時の SONORA では条件をクリアできなかつた。翌年には SONORA の改良版で再び印刷テストを行ったが、同社が望むような結果は得られなかつた。それでも諦めることなく、何度となく印刷テストを続けた。その理由を管理部部長の小笠原淳氏は次のように話している。

「環境問題はもちろんです、経営サイドには『コスト削減』という大きなメリットがあります。また現像レスなので『網点の再現性が正確』『水が絞れる』という品質面でのメリットが現場にもありました。このように経営サイドと現場サイドの双方にメリットがあったので、テストを続ける価値はあると判断しました。当社の UV 印刷機で耐刷性 5 万枚という品質基準さえクリアすれば、すぐにでも採用できると期待していました」

すでに油性印刷機では十分な結果を出していたが、油性印刷機だけ SONORA を採用しても、有処理版は残るのでコスト削減効果は限定的だ。また水なし版もあるため、版の種類が増えてオペレータの負担は逆に大きくなる。こうした事情を抱える同社に対して、KODAK もインキやエッチ液など諸材料との組み合わせを共に模索するなど、全面的にサポートした。「同じ印刷機を使う他社では問題ないのに、当社はなぜ刷れないのか」という思いもあって、小笠原部長は KODAK の提案を積極的に受け入れていった。そして 2019 年 8 月、諸材料を見直した最終印刷テストで SONORA は見事に 5 万通しを実現した。しかも過去のテストでは厳しかった難しい絵柄をあっさりとクリアしたのである。

人件費を含め SONORA のコスト削減効果は年間 100 万円弱

3 年間に及ぶ厳しい印刷テストを経て 2019 年 9 月末、同社は水なし版を除くすべての刷版（他社製有処理版）を KODAK の完全無処理 CTP プレート SONORA に入れ替えた。現在は H-UV 印刷機 1 台と油性印刷機 2 台に月平均約 1,500 版を供給している。SONORA の導入によって「現像液・ガム・薬品の購入費用、廃液の処理費用、メンテナンス費用、人件費など年間で 100 万円弱のコストが削減できる」と小笠原部長は指摘する。また特管産廃を出すアルカリ現像やガム処理などの処理工程が一切なくなったため、生産プロセスの環境対応も一段と進んだ。環境問題に敏感な一流企業を顧客に抱え、長年にわたって環境対策に取り組んできた同社にとって、無処理版の導入は必然でもあったのだ。さらに製版現場では、現像液の日々の管理、週一回の清掃作業、年 2 回のメンテナンス作業などがなくなり、オペレータの負担は大きく軽減された。今では CTP の電源を ON するだけで即座にプレートが出力できるようになった。

新しい SONORA を使いはじめて UV 印刷での耐刷性が安定

SONORA は品質向上にも貢献していると話すのは生産管理部生産課課長の福間剛氏だ。

「現像不良がなくなり、プレート品質が安定しました。網点の再現性にもすぐれ、水も絞れます。特に油性印刷機では 10% 以上絞れるようになりました」

生産課の印刷チームリーダー青木悟史氏は、SONORA による前準備時間の短縮効果について言及する。

「SONORA は湿し水がフラットに上がるので、とても扱いやすい刷版です。これまでのようにスキュー機能が両端の水上がりを整える手間が必要ありません。仕事替えのときの調整時間も 15 分は短縮できています」

さらに最新バージョンの SONORA CX2 を使い始めると、印刷は一段と安定した。この SONORA CX2 は、従来品と比べ UV 印刷時の耐刷性が 50% アップ、視認性・耐傷性が 20% アップしている。福間課長は「視認性が抜群に良くなった」、青木氏は「H-UV 印刷機での機上現像が速い」と CX2 を評価する。UV 印刷での耐刷性も導入当初の不安定さがなくなった。それでも顧客要求度の高い難しい絵柄を刷り続けると、刷版がもたないこともあるため、「耐刷性をもっと高めて欲しい」と青木氏は注文する。KODAK もさらなる改善と改良を続けながら、同社の印刷ビジネスをサポートし続けてゆく。

千修岩井印刷株式会社

代表取締役社長：岩井 竜也
〒135-0062 東京都江東区東雲 2-11-41
TEL：03-3230-7721
<https://www.senshu-g.co.jp/>



コダック ジャパン

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川 4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)
大阪:050-3819-1266 名古屋:050-3819-1265 福岡:050-3819-1270
仙台:050-3819-1255 札幌:050-3819-1250